

# 正しい戦争絶対ない

## 小禄南小 新城さん、体験語る



那覇市立小禄南小学校(山城銀子校長)で14日、平和集会が開かれた。同校で長年交通安全指導を続けている新城紀成さん(81)が



戦争体験を語る新城紀成さん＝14日、那覇市立小禄南小学校

戦争体験を語り、3～6年生563人が真剣な表情で耳を傾けた。新城さんは十・十空襲の記憶や疎開先の九州で父親が空襲の犠牲になった体験を語り「正しい戦争なんて絶対ない。二度と戦争を起こさないうえに、世の中の出来事に関心

を持ってほしい」と願った。

平和集会は琉球新報社NIE推進室の佐藤ひろこ記者が新城さんにインタビューしながら、子どもたちに戦争体験を伝えた。

新城さんは沖縄戦当時13歳で、1944年の十・十空襲の時、不在だった父親に代わり、母親と8歳と5歳の妹2人を連れて、爆弾が落ちてくる中を必死で逃げた。南風原まで避難した記憶をたどり「那覇に帰ると一面焼け野原だった」と振り返った。

疎開先の九州で父親が空襲で亡くなったことに触れ「一番つらかったことは、亡くなった父を自分の手で焼かなければいけなかったことだ」と声を震わせた。

戦後、家族を養うために働き続けた新城さんは「勉

強でいることは本当に幸せなこと。当たり前だと思わないでほしい。戦争を繰り返さないためには自分の国のことだけじゃなく、外国とも仲良くすることが大事だ」と語り掛けた。

児童を代表し、6年の永吉香月さんは「戦争はとても悲しくて全然良いことはない。二度とやってほしくない」と感想を語った。